

「自由学園最高学部紀要」 L^AT_EX 2_ε スタイルファイルの使い方

自由太朗¹, 国際太朗²
(¹ 自由学園, ² 国際文献社)

原稿受付 平成 27 年 7 月 1 日; 原稿受理 平成 27 年 7 月 2 日

How to Use the L^AT_EX 2_ε Style File for the Transactions of JIYU GAKUEN

Tarou JIYU¹ and Tarou KOKUSAI²

¹*Jiyu Gakuen*

²*International Academic Publishing Co., Ltd.*

Jiyu Gakuen provides a L^AT_EX 2_ε style file, named `jiyugakuen.sty`. This document describes how to use the style file, and also makes some remarks about typesetting a document by using L^AT_EX 2_ε. The design is based on ASCII Japanese pL^AT_EX 2_ε.

Keywords: スタイルファイル Style File, アスキー版日本語 pL^AT_EX 2_ε

1. まえがき

本ドキュメントは自由学園最高学部紀要 L^AT_EX 2_ε スタイルファイルを使って論文を記述する際の注意事項をまとめたものです。

原稿作成にあたっては、このスタイルファイルと同時に配布される `template.tex` を利用してください。

組版体裁は 54 文字 × 46 行 × 1 段組 A4 版 (本文 9 ポイント, 行送り 14.5 ポイント) を想定していますが, 選定する書体や読込むパッケージのバージョン (後述する `otf.sty`) によって大きさが変わってくるため, 必ずしも印刷体裁と同等になるとは限りません。レイアウトに係るパラメータも変更しないで下さい。

またクラスファイルについては `jsarticle.cls` をベースにしているため, 本ドキュメントで説明していないコマンドや環境, その他詳しい仕様については CTAN の `jsclasses.pdf` (<http://www.ctan.org/tex-archive/macros/latex/contrib/jsclasses>) などを参照して下さい。

2. テンプレートならびに記述方法

```
\documentclass[a4paper]{jsarticle}
\usepackage{graphicx}
\usepackage{amsmath,amssymb}
\usepackage{colortbl}
\definecolor{mygray}{cmyk}{0.00,0.00,0.00,0.50}
\usepackage{dcolumn}
\usepackage{multirow}
\usepackage{arydshln}
```

```

%\extrarowheight=.75mm%
\usepackage{url}
\def\UrlFont{\rm}
\usepackage[deluxe,multi,scale=1.0]{otf}
%\usepackage[deluxe,multi]{otf}
\usepackage{redefont}
\usepackage[numbers,semicolon,round]{natbib}
\usepackage{jiyugakuen}%% <-This is it! 自由学園スタイル
\volume{巻}
\volyear{年}
\category{論文タイプ}
\jtitle{和文タイトル}
\jauthors{和文著者}
\jaffils{和文所属}
\date{日付}
\etitle{英文タイトル}
\eauthors{英文著者}
\effils{英文所属}
\abstract{英文 Summary}
\keywords{キーワード}
\begin{document}
\pagestyle{jiyu}
\maketitle
\section{緒 言}
---本文---
\theendnotes%% 注釈出力
\begin{thebibliography}{xx}
---文献リスト---
\end{thebibliography}
\end{document}

```

(1) プリアンブル・パッケージ編

- クラスファイル
元となる L^AT_EX 2_ε クラスファイルは jsarticle.cls を使用して下さい。
- 図版関係
図を取り込むには \usepackage[dvips]{graphicx} と指定し (お使いのドライバーに応じて dvips を適当なものに変更して下さい)。
- 数式関係
amsmath, amssymb パッケージを使用して下さい
- カラー関係
colortbl パッケージを読み込み, mygray を定義して下さい。mygray は見出しページ左上の論文タイプ上下網線に使用しています。
- 表組関係
必要に応じて multirow, dcolumn, arydshln パッケージも読み込んで下さい。
- URL 関係
必要に応じて url パッケージも読み込んで下さい。

- 書体関係

欧文は T_EX デフォルト書体 (コンピュータモダン), 和文はリュウミン・中ゴシック (フォントのマッピングにより異なります) を使用します. 印刷版では和文は小塚系書体になります. デフォルトのままでもよいのですが印刷版に対応するため OTF (Open Type フォント) パッケージも利用して下さい. オプションで `[deluxe,multi,scale=1.0]` を指定して下さい. スタイルのバージョンによっては `scale` オプション等が定義されていないものもあります. そのときはオプションを外して処理しても構いません. ただしポイント数が 0.92 倍となり字詰めが変わってきます. できるだけ新しいバージョンをご用意下さい.

- 参考文献関係

文献は `thebibliography` 環境を使用して下さい. 詳細は後述します.

- 自由学園最高学部紀要用スタイル

`jiyugakuen.sty` をここで読み込んで下さい

(2) プリアンブル・タイトル見出し編

プリアンブル後半部分では本文が始まる前に各タイトル見出しの値をそれぞれセットしておきます

- 巻は `\volume{ }` を使用して下さい.
- 年は `\volyear{ }` を使用して下さい.
- 論文タイプは `\category{ }` を使用して下さい. 中に入るのは「論文」「報文」「資料」「寄稿」「ニュース」です.
- 和文タイトル `\jtitle{ }` を使用して下さい. 奇数頁柱は和文タイトルが出ます. 任意で変えたい場合はオプションで `[柱]` を指定して下さい. 偶数頁柱は自動的に「雑誌名 Vol. 巻 (年)」が出ます.
- 和文著者 `\jauthors{ }` を使用して下さい. 各所属番号は数式上付き $\1 で記述をお願いします.
- 和文所属 `\jaffils{ }` を使用して下さい. 各所属番号は数式上付き $\1 で記述をお願いします.
- 日付 `\date{ }` を使用して下さい.
- 英文タイトル `\etitle{ }` を使用して下さい.
- 英文著者 `\eauthors{ }` を使用して下さい. 各所属番号は数式上付き $\1 で記述をお願いします.
- 英文所属 `\eaffils{ }` を使用して下さい. 各所属番号は数式上付き $\1 で記述をお願いします.
- 英文要旨 `\eabstract{ }` を使用して下さい.
- キーワード `\keywords{ }` を使用して下さい.

3. 本文について

(1) タイトル部出力

本文の始まり `\begin{document}` で始め, ページスタイルは `\pagestyle{jiyu}`, そして `\maketitle` で出力されます.

(2) タイピングの諸注意

- 句読点について文章の区切りには全角の句読点「,」(カンマ)と句点「.」(ピリオド)を用います.
- 括弧類については基本全角の括弧を使用して下さい. 欧文中や数式環境では半角のものです. ただし本文中の引用箇所 (文献リストからの) については `\citep{ }` を使用すると半角括弧になります*1
- ハイフンやダッシュ
ハイフン (-), 二分ダッシュ (--), 全角ダッシュ (---) の区別をしてください.

(3) 図表について

- 図
前述通り, 画像は基本的に POSTSCRIPT 形式を利用して下さい. 適当なアプリケーションツールで作図し eps 形式で保存します. そしてコマンド `\includegraphics` で図を取り込みます. キャプションは図版の下に置いて下さい (図 1).
- 表
キャプションは表組の上に置いて下さい (表 1).
- 出力位置
番号付き図表の出力位置を指定する場合, オプションとして `[h]` を使わず, `[tb]` などとして版面の天か地に置くようにして下さい.

```
\begin{figure}[tb]
\centering
\includegraphics{F01.eps}
\caption{キャプション}\label{fig01}
\end{figure}
```

図 1. 図のキャプション

表 1. 表のキャプション

A	B	C
X	Y	Z

```
\begin{table}[tb]
\centering
\caption{表のキャプション}\label{tab1}
\begin{tabular}{c|c|c}\hline
A & B & C\\ \hline
X & Y & Z\\ \hline
\end{tabular}
\end{table}
```

(4) 注釈について

注釈はコマンド`\endnote{ }`を使用し、`\theendnotes`でまとめて出力します。実際の中身は拡張子が「.ent」ファイルに入っています。出力位置は参考文献の直前に置いて下さい。

(5) 参考文献について

参考文献は `natbib.sty` の読み込みと `thebibliography` 環境を使用します。本文中の引用は`\citep{ラベル}`で呼び出します。プリアンプルでの記述は`\usepackage[numbers,semicolon,round]{natbib}`として下さい。

```
\begin{thebibliography}{xx}
\bibteim[鈴木 1990]{r1}
鈴木泰 (1990) 生活時間調査概論. NHK 放送文化調査研究年報, \textbf{35}: 53--99
\bibitem[松村 1997]{r2}
松村祥子 (1997) 生活経営と環境. (社) 日本家政学会編 (編) ライフスタイルと環境: 121--134
-- (続く) --
\end{thebibliography}
```

コマンド`\bibitem`のオプションで[著者名_発行年]にし、後の順番は投稿規定に沿った形で書いて下さい。本文中での引用は`\citep{label}`で呼び出します。例えば、(松村 1997; 鈴木 1990), (奥村晴彦 2010), (武田史朗 2015)です*2。

4. pdfの作成方法

pdfを作成するには主に二通りの方法があります。

1. `dvips` を使用してまず `ps` に書き出します。例えば、

```
dvips -t a4 readme.dvi -P dl
```

できた `ps` を Acrobat Distiller で pdf へ変換します。

2. もう一つは `dvipdfmx` を使って pdf にします。

```
dvipdfmx -p a4 readme.dvi
```

5. ソース・ファイル提出に際してのお願い

1. データの提出に関しては、「自由学園最高学部紀要」の投稿手引書を参照して下さい。
2. ソース・ファイルはできるだけ1本のファイルにまとめて下さい。
3. 著者独自のマクロなど、コンパイルに必要なファイル、図の eps データなどは忘れずコピーしてください。

注

*1 印刷版では全角へ変えます

*2 文献データベースから文献リストを作る Bib_LTEX 用スタイルファイルは今のところ作成していません。

参 考 文 献

松村祥子 (1997) 生活経営と環境. (社) 日本家政学会編 (編) ライフスタイルと環境: 121-134

鈴木泰 (1990) 生活時間調査概論. NHK 放送文化調査研究年報, **35**: 53-99

奥村晴彦 (2010) [改訂第5版] L^AT_EX 2_ε 美文書作成入門. 技術評論社

武田史朗 (2015) 経済学用 Bib_LTEX スタイルファイル jecon.bst